



# 奈良県内経済情勢報告

(令和5年7月判断)

## 1. 総論

### 【総括判断】

「県内経済は、持ち直している」

項目	前回 (5年4月判断)	今回 (5年7月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和5年7月判断は、前回5年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

### (判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

### 【各項目の判断】

項目	前回 (5年4月判断)	今回 (5年7月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある	足踏みの状況にある	↘
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	4年度は減益見込み	5年度は増益見込み	↗

### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

- ・百貨店・スーパー販売は、物価上昇による消費者マインドの低下などにより、足踏みの状況にある。
- ・コンビニエンスストア販売は、インバウンドや国内観光客の増加などにより、引き続き人流が増加していることから、堅調に推移している。
- ・ドラッグストア販売は、インバウンドや国内観光客の増加により、医薬品などを中心に、好調に推移している。
- ・ホームセンター販売は、物価上昇による消費者マインドの低下などにより、低調に推移している。
- ・家電大型専門店販売は、販売価格上昇の影響や、外出意欲の高まりによる家電以外の消費の増加などから、低調に推移している。
- ・乗用車新車登録届出台数は、普通車・小型車・軽自動車のいずれも前年を上回っている。
- ・観光動向は、インバウンドや国内観光客の増加により、回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 来店せず必要品のみネット購入する顧客や、物価高騰下の節約志向等を理由とした近隣競合店を利用する顧客の増加により、来店客数・売上ともに伸び悩んでいる。 (百貨店・スーパー)
- 物価高騰を背景に消費者の節約志向が高まり、より安いものが好まれている。 (百貨店・スーパー)
- インバウンドや観光客の増加で、都市部の店舗を中心に好調だった。節約志向のようなものは見られない。 (コンビニエンスストア)
- インバウンドは医薬品を中心に、国内観光客は飲料や食料品を中心に好調である。 (ドラッグストア)
- 物価上昇の影響で購買意欲は落ち込んでおり、通常のキャンペーンでは反応が乏しく、消費者は必要なものだけを購入するようになっている。 (ホームセンター)
- 新型商品の価格が上昇しているため、価格の安い型落ち商品を求められることが多い。その他、外出意欲の高まりから家電以外への消費が増加していると感じられ、今後さらに消費に占める家電の割合が減少していくと考えている。 (家電量販店)
- 消費者の購買意欲は落ち込んでおらず、納車の長期化は継続しているものの、新型車を中心に受注状況は引き続き好調である。 (自動車販売店)
- 5月からのコロナ5類移行に伴う外出意欲やリベンジ消費を肌で感じており、足元の宿泊予約は順調である。 (宿泊)
- 桜のシーズンやゴールデンウィークであったことから、インバウンドや国内観光客が増加し、観光客数はコロナ前の9割程度に回復しているとの声も聞かれている。 (観光関係団体)

#### ■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数は、「輸送機械」「その他（木材・木製品）」などが上昇しているものの、「食料品」「金属製品」などが低下している。

なお、企業からは、半導体供給制約の緩和により生産状況が改善しているとの声が聞かれる一方、中国を取り巻く状況等に起因して生産計画を見直すとの声のほか、物価高騰に伴う海外製品への置き換えなどにより生産量が減少しているとの声が聞かれている。

以上のことから、生産活動は、足踏みの状況にある。

#### (主なヒアリング結果)

- 自動車生産における半導体不足が緩和されつつあり、生産ラインがフル稼働となっていることから生産状況は改善されている。 (輸送機械)

- パワー半導体関連やEV向け二次電池関連の受注が好調。しかし、半導体を使用した部品(シーケンサー、ブレーカー、インバーター等)の調達困難は継続しており、中国の景気減速を理由とする取引先の生産調整のため、納品の先延ばしを相談されるケースもある。(生産用機械)
- 対中輸出規制により、取引先が中国向けに予定していた製品の製造を中止したほか、工場建設地を中国から米国へ変更したことに伴って仕様を米国規格に変更する必要があり、納品時期が大幅に遅れることとなる。(生産用機械)
- アパレルやスポーツブランドのOEM製造は、物価高騰に伴う海外製品への置き換えや国内需要自体の減少により、生産量が減少している。(繊維)
- 当社は中食製品の製造を行っているところ、6月以降の希望小売価格が10%程度アップすることが決定していたことから、駆け込み需要による生産量増加を期待していたものの、生産量は前年同期比20%程度の減少。減少要因は脱コロナによる外食需要の回復によるもの。(食料品)
- 4月の食料品値上げを前にした消費者の買いだめに起因して、取引先(大手食料品メーカー)の売上が低迷し、当社の受注量が低下している。(その他製造)

## ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率でみると、引き続き求人が求職を上回っており、持ち直しつつある。また、法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIについて、全産業の現状判断は、令和3年4-6期調査以降9期連続の「不足気味」超となっていることなどから、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 専門人材を中心に、全体的に不足気味である。省人化に向けてデジタル化を進めているが、それに伴う基幹システムの変更作業に人手がかかるという本末転倒な状況にある。(生産用機械)
- 正規職員について、新規採用を募集しているものの3年前から応募がない状況。近距離に位置する大阪の労働条件(賃金など)と比較され、人手の多くが大阪に流れている。(繊維)
- 正規職員が慢性的に不足しているものの、採用は難しく、客室稼働率を下げて今の従業員数で対応している。また、物価上昇を勘案したほか、給与を上げなければ人材を確保できないため、4月にベースアップを行った。(宿泊)
- コロナの影響が少なくなり運行が正常化してきたことから、乗務員不足が顕著となっている。現時点で希望採用人数の5割程度の確保に留まっており、時間外労働・休日出勤で人手不足に対応している。(陸運)
- 求人については、人手不足が深刻であるため、経験者・有資格者などの即戦力に絞って採用募集している企業が増えていく。また、現在抱えている従業員と新規採用者の両方の賃上げに対応できないことに加え、物価高騰の影響が重なり、人手不足であるものの求人を控える中小企業もみられる。  
求職については、物価高騰により、従来以上の収入が必要になったとの理由から、年金受給者のほかパートでダブルワークを希望する人が増えている。(公的機関)

## ■ 設備投資 「5年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和5年4~6月期

5年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

## ■ 企業収益 「5年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和5年4~6月期

5年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、製造業で増益見込みとなっているものの、非製造業で減益見込みとなっている。

## 【その他の項目】

- 住宅建設 新設住宅着工戸数で見ると、貸家において前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。
  
- 公共事業 前払金保証請負金額(累計)で見ると、国、独立行政法人、県、市町村で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。
  
- 企業倒産 倒産件数は足下で前年を下回っている。負債総額は前年を下回っている。
  
- 企業の景況感 法人企業景気予測調査(令和5年4~6月期調査)の景況判断BSIで見ると、現状判断は「上昇」超となっている。先行きについては、5年7~9月期は「下降」超、5年10~12月期は「上昇」超の見通しとなっている。

〔連絡・問い合わせ先〕

近畿財務局 奈良財務事務所 財務課  
TEL 0742-27-3162 (直通)